

保育者が一斉保育で選択した主活動の際に見られた 子どもの姿に関する実証的研究

戸田大樹（創価大学）・荒木由紀子（幼保連携型認定こども園せんだん幼稚園）
岸 正寿（生田ひまわり幼稚園）・舘 秀典（東京福祉大学）

1. 問題と目的

近年、待機児童問題に伴う保育者の大量養成が進んでいるが、それに伴う保育者の質の低下が問題視されている。保育界においては保育の質の担保を意図し、幼稚園教育要領（文部科学省，2017）や保育所保育指針（厚生労働省，2017）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（文部科学省・厚生労働省・内閣府，2017）を同時に改定した。このような大きな動向の中で、保育者養成校（以下、養成校とする）には質の高い保育者の養成という責務が課せられている。

ここでいう保育者の質について、大宮（2006）はプロセスの質（保育実践そのもの。子どもと保育者の相互作用。環境構成、等）、条件の質（クラスの子どもの人数、大人と子どもの比率、保育者の経験年数・学歴・研修、等）、労働環境の質（給与、仕事への満足度、運営への参加、ストレス等）の3点を挙げている。養成校においては、保育者志望学生の保育実践の向上を図ることにより、保育の質の向上に貢献しなければならない。

保育者の保育実践における質の向上に関し、保育者養成課程研究会（2017）は養成校のカリキュラム「保育内容の指導法」到達目標3に「指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる」と記している。このように、保育者志望学生は養成校時代から具体的な保育指導案が構成可能な力量が求められている。具体的な保育指導案の要素として、ねらいや内容の設定も重要であるが、自らが一斉保育の際に設定した主活動の際に見られるであろう子どもの姿を予想する力量も重要である。

なぜなら、広瀬（2006）は学生が指導案にまとめるべき予想される幼児の活動に着目し、実習前の学生は子どもの姿を想起すること自体に困難が伴うと述べているからである。一斉保育とは「同年代の子どもたちに同じことを、同じ方法で行うこと

によって、保育者が身につけて欲しいと願うことを子どもたちが効率よく身につけ、また指導の平等につながるという保育者の指導上の利点から発想される保育が一斉保育である。ここには、一人ひとりの子どもに応じた育ちを支えるという視点が欠如している。

しかし指導の効率という保育者中心の保育観からではなく、活動形態という側面からとらえると、一斉保育はいっしょに行う活動形態ということになる。保育理念としての一斉保育ということばと保育形態としての一斉保育ということばが混同されることによって、自由保育との対比で用いられてきた経緯がある」（田代，2015，p.112）。

ベテラン保育者であれば、一斉保育でねらいに即した活動を選択して指導案を作成した上で子どもを見守ったり、適切な言葉かけをするなど、個々に適した援助が可能である。また、保育者として子ども集団全体の視点も重要だが、まず目の前の子どもの具体的な姿を個別に想像することも重要である。この具体的な姿とは、保育者のねらいが達成されていて望ましいと捉えられる姿、またはその逆の姿で保育者の援助がより必要だと捉えられる姿（例えば、食べ残しをする子どももいるなど）を含む（戸田，2018）。

しかし、日々、保育者が指導案にまとめている予想される子どもの姿の記述は、保育者のねらいが達成されていて望ましいと捉えられる子どもの姿が大半である。これは、豊かな保育経験年数に支えられた保育者による省略版のまとめであると考えられる。ベテラン保育者に比べて保育経験が浅い保育者志望学生は、援助がより必要だと捉えられる姿まで事前に予想していない場合、柔軟に子どもに対応することが困難である。

したがって、養成校では学生に対して確かな実践知を教授するためには、登園から降園までに見られるであろう子ども姿を具体的にイメージできる力量を育成することが重要である。ここでの実践知とは、「学問的理論や知識の単なる適用ではない、個別具体的な状況で発揮され更新される実践者独自の暗黙の知識や思考様式，方略の総体」と定義される（砂上・秋田・増田・箕輪・中坪・安見，2012，p.252）。

戸田（2018）によれば、現職保育者の実践知を明らかにすることを意図し、保育経験年数を要因として保育者が一斉保育で選択する主活動の実態を実証的に明らかにしている。分析の結果、5年以上保育者及び5年未満保育者が乳幼児に選択した

主活動は、遊び（運動・音楽・造形を含む）や基本的な生活習慣（食・眠等）、散歩行事、その他に分類されたことを報告している。また、その際に見られた0歳児に対してねらいが達成されていて望ましいと捉えられる姿、またはその逆の姿で保育者の援助がより必要だと捉えられる子どもの姿を報告している。

このように、0から5歳の乳幼児を対象とし、保育者のねらいのもとに選択された主活動の際において、そこで見られた子どもの望ましい姿に関する研究は少ない。とりわけ、保育者の援助がより必要な子どもの姿が示された研究は皆無である。よって、研究課題として現職保育者の保育のねらいに基づいた主活動の時に見られた「望ましい子どもの姿」に加え、「より援助が必要な子どもの姿」の実態を明らかにすることは、養成校における保育者志望学生に対する実践力指導の改善に寄与するための基礎的資料を得るうえで意義深い。

本研究では、今後の養成校における保育・教育実習事前事後指導の改善に寄与するための基礎的資料を得ることを目的とし、戸田（2018）では十分に言及することができなかった、保育経験年数を要因として保育者が一斉活動を選択する主活動の際にみられた子どもの姿を実証的に明らかにする。その際、保育経験5年以上の保育者によって主活動において「より援助が必要な子どもの姿」がどのように捉えられているのかに着目して分析を行う。

なお、保育経験5年以上の保育者は、5年以上保育者とする。ここで保育者の保育経験を5年と設定したのは、保育教諭養成課程研究会（2016）が悩みを抱えつつ幼稚園教員としての力量が育つには、3年から5年かかること報告しているからである。

2. 研究方法

目的

保育経験年数を要因として保育者が一斉保育で選択した主活動の際の子どもの姿を実証的に明らかにする。具体的には、5年以上保育者のねらいのもとに選択された主活動の時に見られた「望ましい子どもの姿及びより援助が必要な子どもの姿」の実態を明らかにすることを目的とする。

調査対象

保育者 51名（男性 2名、女性 49名）

調査期間

2017年12月～2018年3月

手続き

幼稚園や保育所に調査協力を依頼し、質問紙による調査を実施した。

調査内容

フェイスシート：性別、年齢、住まい、所属、取得済の資格・免許、の6項目である。

質問紙

問は「あなたは実際に保育者になって、一斉保育の際にどのような「ねらい」のもと「活動」を選択して実践しましたか。また、実践中に見られた子どもの姿（望ましい姿や気になる子どもの姿）を最大3つ全て記入して下さい。」である。この問については、0歳児から5歳児の場合実際に担当した年齢の乳幼児に対してのみ回答を求めた。

倫理的配慮

本研究は、創価大学・人を対象とする研究倫理委員会の承認を得て行った。調査対象者には、研究の意義、目的、研究への参加は任意であること、匿名性の保持の方法について文書で説明し、同意書の提出をもって調査協力への同意とした。

3. 結果と考察

本研究では、保育経験年数を要因として5年以上保育者が立案して実際に実践した一斉保育における「ねらい」と「活動」、実践中に見られた「望ましい姿」及び「より援助が必要な姿」を自由記述によって明らかにした。具体的には、保育経験35年以上の元園長と大学教員2名によって子どもの姿を分析した。子どもの姿にアンダーラインを引いている箇所は、「より援助が必要な子どもの姿」を指している（表1から6参照）。

結果、5年以上保育者が0歳児から5歳児に対して主活動を選択した際のねらい、「望ましい姿及びより援助が必要な姿」が明らかになった。以下、本研究では、特に5年以上保育者のねらいのもとに選択された主活動に見られた「より援助が必要な子どもの姿」の実態に着目する。「より援助が必要な子どもの姿」の記述は、0歳児3件、1歳児4件、2歳児12件、3歳児20件、4歳児12件、5歳児19件であったこ

とが認められた。よって、5年以上保育者は主活動の際、ねらいが達成されている望ましい子ども姿に加え、より援助が必要な子ども姿が見られることを認識している。

5年以上保育者がねらいのもとに一斉保育を実施した活動の場合において、「望ましい子ども姿」は0歳から5歳児を対象に「ルールを理解して楽しく遊べるようになった」等、保育者のねらいが達成されている姿の記述が多く見られた。一方で、「より援助が必要な子どもの姿」は3歳児のしっぽとりで「しっぽを取られ泣き出す」、4歳児のちぎり絵で「なかなか決められず、戸惑い作り出せない」、5歳児のなわとびで「座り込んでやらない」など、援助がより求められる姿の記述が3歳から5歳児に多く見られた。

この結果から、保育経験を積んだ5年以上保育者の実践の最中にも「より援助が必要な子どもの姿」は確かに存在することが明らかである。子どもの姿の実態は個々の発達の個人差など、様々な要因が関係しているため千差万別だと考えられる。しかし、経験豊富な保育者であったとしても、一斉保育中に少なからず「より援助が必要な子どもの姿」が見られると考えられる。

ここで重要なのは、保育実践中に「より援助が必要な子どもの姿」が見られたとしても、保育者が焦らず柔軟に対応することが可能な力量を備えていることである。そのためには、保育者志望学生は現職保育者になるまでに、「より援助が必要な子どもの姿」も想像できる力量を獲得しておくことが重要である。

先にも述べたが、保育経験5年以上の熟達保育者であれば、一斉保育でねらいに即した活動を選択して指導案を作成し、そこで見られる子どもの「望ましい子どもの姿」及び「より援助が必要な子どもの姿」に対し、個々及び集団に適した援助が可能である。

しかし、保育経験が少ない学生がこのような援助を可能にするためには、保育場面に応じて目の前の子どもの姿を具体的に想像するための学習を積むことが重要である。本研究で得られた結果は、養成校における保育者志望学生に対する実践力指導の改善に寄与するだろう。また、日々、保育者がまとめる「予想される子どもの姿」の記述は、保育経験年数に支えられた省略版のまとめである根拠を裏付ける基礎的資料でもある。養成校はこの点も踏まえ、保育士志望学生に対する指導案構想の指導改善に努める必要があるだろう。

「アジア教育文化ジャーナル」第1号（2019年3月）

表1 5年以上保育者の0歳児に対するねらいと活動、子どもの姿について（N21）

ねらい	活動	子どもの姿
子どもたちが快適に過ごし、新しい環境に慣れる。	スキンシップをする	特定の保育者と関わる中で、安心感と信頼関係を築く。
一人ひとりの発達状況に合った全身運動が十分にできるようにする。	一人ひとりの発育・発達に応じた運動遊び	朽枝台や階段での登り降りを楽しむ。
様々な食材に慣れ、食感を楽しみながら咀嚼する力をつける。	手掴み食べや食具を使って食べる	食材を手で触る。口へ運ぶ。
絵本を楽しむ。	読み聞かせ	同じ言葉の繰り返しを読むと、身体を動かしたりする。
音楽に合わせて楽しむ。	リトミック	先生が楽しむ姿を見て、一緒にやろうとする。
保育者とのふれあい遊びを通して全身運動を楽しむ。	歌にあわせて身体を揺らす	歌にあわせて、マラカスやタンバリンなど音の出るおもちゃをたたいたり、身体を揺らしたりして楽しむ。保育者と触れ合うことで声を出して笑ったり、関わることを楽しむ。
絵本の世界や言葉の繰り返し、リズムを楽しむ。	読み聞かせ「がたんごとんがたんごとん」	「がた、ごと」といいながら身体を自然に動かす子もいる。読み終わると「もっと」と繰り返し読むことをせがむ子も多い。
繰り返しの言葉を楽しむ。	読み聞かせ「だるまさんが」	おやつ準備の間、手洗いを済ませた子はすいすい座って静かに見る。だるまさんがという言葉のリズミカルに読んでもらうと喜んでみている。
楽しんで絵本を見る。	読み聞かせ「いないいないばあ」	いろいろな動物が出てくると「ワンワン、ニャーニャー」と泣きまねをする。お話しと一緒にいないいないばあをやる。次のページが待ちきれず、絵本をめくろうとしてよってくる。
季節の移り変わりを感じる。	散歩に行き自然に触れる。	落ち葉を拾う。吹きだつた枯葉を踏んで音に喜ぶ。カラスラリを食べられると思って欲しがる。
絵本を見て楽しむ。	読み聞かせ「いないいないばあ」	保育者の周りに座っている子「あー」と声を出す子、ニコニコと手をたたきながら見られる。他に興味を持ち絵本を見ない子もいる。
ハンカチ遊びをする。	読み聞かせ「いないいないばあ」「おかおのかくれんぼ」	保育者の「いないいないばあ」の声に合わせて「ばあ」と声を出しハンカチを顔から外し楽しむ姿が見られる。
自然に触れ、保育者の言葉かけを通して言葉を育んでいく。	散歩	戸外に出るとうれしそうに声を出したり「クック」という子もいる。絵本を見ながら「こんにちは」の言葉に合わせてお辞儀をする姿が見られる。
友達と共感しながら自然に触れ季節を感じる。	散歩	落ち葉を拾い集める。大人が間に入り友達同士落ち葉を手に取り笑いあう。歩きたくないと泣き出す子。みんながいるところに関心を持たず一人だけ先に歩いてしまう。
心地よく過ごせる環境をつくる。	眠る・食べる	生活の中で「眠る」「食べる」ことが規則正しく十分に保障されると、気持ちが安定し、探索活動への意欲にもつながる。
「あった」「みつけた」が伝わるよるこび。	ポットンおとし、いないいないばあ	[自分⇄人⇄対象]の3者関係が成立し、穴おとしであそんでいて、手からポットンと箱の中におちると「ウウッ！」などと声を出して大人の反応をみる。
自然を楽しむ。	散歩	外の空気に触れて楽しむ。
体を動かすことを楽しみ、心と体の発達を促す。	ビデオを見ながら保育士と一緒に体操をする	初めは保育士の動きに身をまかせている様子だが、少しずつ顔の表情も変わり、楽しさを感じているお子様もいます。
保育者との楽しいやりとりを通して発語への意欲をもつ。	読みきかせ「いないいないばあ」	優しい語りかけの中で、言葉をかけられる心地良さを味わっている。喃語や片言を受け止めたり返したりしてもらいながら、発したり、模倣しようとする。
スキンシップを楽しむ。	ベビーマッサージ「ふれあいリラックス体操」「ブラッシング体操」	気持ち良い、心地よいことがわかり、愛着関係が深まる。優しくふれられたり、話しかけられることで安定する。
甘えや喜びなど自己表現を受け止めてもらい豊かな感情をはぐくむ。	歌「だっこして、ぎゅっとして」	歌にあわせて、保育者とのコミュニケーションを楽しんでいる。

表2 5年以上保育者の1歳児に対するねらいと活動、子どもの姿について(N26)

ねらい	活動	子どもの姿
保育者に励まされながら、自分のことを自分でしようとする。	衣服の着脱や手洗い	衣服の着脱や手洗いを自分でしようとする。
生活の見通しを持ちながら、進んで行動しようとする。	イラストや絵本・紙芝居を使つての説明	保育者に子どもから尋ねる。
絵本を楽しむ。	読み聞かせ	動物や人物などが分かりやすいものを読むと、言葉を言ってみたり、表情が変わったり、楽しむ姿があった。登場人物と同じ表情を見せたりする。
指先を使う活動。	紐通し	保護者の援助も必要だが、自分でやってみようとする姿もある。集中して行う姿もある。
指先を使った遊びを楽しむ。	ボタン、紐とおし	つまむ、穴に入れる、引っ張る。
指先の使い方を知り、着脱に興味をもつ。	ボタン遊び	つまむ、穴に入れる、引っ張る。
保護者や友達とのやり取りを楽しむ。	ままごと	「どうぞ」「ありがとう」などの言葉のやり取りをする。言葉が出ない子は手を差し出す、うなづくなどの動作をする。
イメージを膨らませのびのびと表現活動をする。	リトミック	音楽に合わせてたたいたり、ピョンピョン飛び跳ねたり、ごろごろと転がったりする。曲に合わせてようとせず、自由に走り回る子もいる。
先生の話聞いて絵本の世界を楽しむ。	大型絵本の読み聞かせ	ページをめくるたびに声を出したり、保育者の声かけに答える。
季節の歌にあわせ手遊びを楽しむ。	「どんぐりころころ」 「大きな栗の木下で」	保育者のマネをして手を動かす。ところどころ発声して曲に合わせてしようとする。手をたたいてリズムに乗る。身体を揺らす。
動物に興味を持つ。	動物に関する絵本やペープサート	絵本やペープサートに興味を持ち喜ぶ姿が見られる。
おままごと遊びを楽しみながら野菜の名称に親しむ。	・お料理ごっこ ・ままごと遊び	おもちゃの野菜をお皿に載せたり、あーんばく人形に食べさせる姿が見られる。
遊びを楽しみながら盛り物に興味を持ち名称を知る。	乗り物ごっこ	車のおもちゃを動かしたり、重ねたりして遊ぶ姿がみられた。保育者のマネをして「ピーポー」「かんかん」などの言葉が出ていた。「かして」「いいよ」などのやり取りが多く見られた。
社会性を育む。友達と手をつないで歩く楽しさを味わう。秋の自然にふれる。	散歩に出かける	「お散歩に行くよ」というと月齢の高い子は声を掛け合つて手をつなぎ持つ。保育者のサポートが必要な子もいるが子供同士手をつなぎ、お互いのペースを意識しながら保育者の後ろについていく。途中落ちていたどんぐりを見つけると喜んでどんぐり拾いを楽しむ。
絵本を通して想像を膨らませ友達を共感しあう。	読み聞かせ「ねないこだれだ」	期待を膨らませ絵本を見る隣の友達をたたく子。おしゃべりする子。歩き出す子。お化けが出てくる場面で目を隠す子。「キャー」といいながらわくわくして友達と目を合わせあう子。
「おんなじ」がうれしい、「いっしょ」が楽しい。	おままごと	Aちゃん おままごとのスカートをはき、カバンをもち、おかいものごっこ。それをみてBちゃん Cちゃんも格好をして「いってきまーす!」「〇〇ちゃんもー!」とおかいものがスタートした。
ことばと表象。	読み聞かせ「みんなでんしゃ」・「つみつみでんしゃ」	喃語や音声から「マンマ」「ワンワン」→「ワンワンいたねえ」「はっぱあったね」と言葉にして応答的にやりとりする。身近な動物と、繰り返しのお話により、言葉を習得する。
自然の中でよく歩く。	散歩	歩けることの喜び、転びながらも又歩きます。
身の回りへの興味・関心を育む。	おままごと	回りにいる年上のお子様の遊ぶ様子を見て、まねる行動をとり始めた。最初は、お皿やスプーン、くだものなど単独で手につかみ感触を楽しんだり、投げたりの行動から、お皿に物をのせて運ぶなどでもできるようになりました。
食育を育む。	お給食を自分で食べさせる	スプーンやフォークをにぎる事はできても、なかなか上手に使えない時もありますが、食べてみたい物、気に入った物などは素手でつかみ、上手に口へ運ぶと、とても満足気な表情をみせます。ご飯だけ、スープだけと偏りはあっても自分でできたという自信はとてついているようで、保育者が口へ運ぶよりもたくさん食べられるように感じます。
歌を歌いながら手を動かして楽しみ、脳や体の発達を促す。	手遊び歌	最初はジーッと保育士を見つめているだけだが、興味深くじっくり見ている様子。手を少し真似て動かしている子もいる。
色の名前を知る。	ペープサート♪どんな色がすき	歌に合わせて、手拍子したり身体を揺して一緒に歌う。
絵本の世界を楽しむ。	読み聞かせ「ばばんのぼん」	ばばんのぼんのセリフに合わせて、手をたたく。リズム通りには手をたたけないが、やっているつもりになって、手をたたく事を楽しんでいた。
絵本を楽しむ。	絵本「じゃあ じゃあ びり びり」読み聞かせ	ぶーぶーぶーぶー わんわんわんわん じゃあじゃあじゃあ 等々保育者の真似をしたり、同じ動きをする。
絵本の世界を楽しむ。	絵本「もこ もこ もこ」読み聞かせ	「もこ」「によき」「もこもこもこ」「によきによきによき」「ぼく」等々絵本の動きに合わせて、指さしたり発声したりする。
歌にあわせてふれあいを楽しむ。	手遊び「ぐーたち」	友だちや保育者と触れ合い、こそばされたり、タッチをしたりして 喜んでいる。

表3 5年以上保育者の2歳児に対するねらいと活動、子どもの姿について（N27）

ねらい	活動	子どもの姿
保育者の援助を徐々に減らし、できることを増やす。	着脱トレーニング	自分でやりたいという意欲があり、「自分で」の気持ちが強くなる。
ごっこ遊びを通し、他児との関わりを楽しむ。	追いかっこ・ままごと	人形を赤ちゃんに見立てる。お皿に野菜や果物の玩具をのせて保育者に手渡す。
手先を使った遊びを取り入れる。	紐通し・パズル	イスに座り、集中して取り組む。出来ない時は、保育者に訴える。
手先の巧緻性を養う。色や形の識別。	紐通し	回を重ねる毎に早く紐に通すことが出来るようになった。保護者が指定した色や形を自分で見つけられるようになった。長くなるとみんな大喜びだった。
自然を感じる。	散歩	植物等、木になる自然に触れてみる。五感を使って楽しむ。
絵本の世界を楽しむ。	絵本の読み聞かせ	絵本に興味をもつ。一緒に声を出す。真剣に集中して見たり、聞いたりしている。
指先を使う活動。	洗濯ばさみ	保護者のまねをしながらか、洗濯ばさみをつなげたり、動物に見立てたりして楽しむ。
言葉に興味をもつ。	絵本	絵本の言葉を口ずさむ、自分から言おうとする。
保護者や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。	ままごと	「かして」「いいよ」などの言葉のやり取りを楽しむ。友達や先生と共感する。
言葉に興味をもつ。	読み聞かせ（繰り返す言葉のあるもの）	絵本の言葉を覚える。自分で言おうとする。
クッキングを楽しみながら食べることへの喜びや楽しさを感じる。	クッキー作り	クッキーの生地感触を楽しむ。できた形を友達と見せあったりしながら、言葉のやり取りをする。保育者の話を良く聞いて、行動する。
節分の行事に参加し、季節感を味わう。	豆まき	自分でつくったお面をかぶり、元気に豆まきをする。事前に絵本などで、豆まきについて多少理解する。鬼に対して恐怖心を強く持つ子もいる。
素材の面白さに気付く。	新聞おんせん	指先を使って新聞紙のびりびりを楽しんでいた。新聞紙を上から降らせたりしていた。お友達と協力して新聞紙のびりびりを楽しんでいた。
カラーボールを使いいろいろな色を知る。	カラーボールを使って遊ぶ (保育者がいった色のボールをかがにいれる)	ボールを転がしたり、重ねたり楽しむ姿が見られた。保育者が「言った色をかごに入れてね」と伝えるとうれしそうに持ってくる姿が見られた。まだ色が分からない子がいた。
両手の指先を使い小さな穴に紐を通す。	紐通し	お友達がやっているのを観察する。話をしする。一生懸命ひもを穴に入れようと頑張る。
正しいはさみの持ち方を知る。	一つ切り	はさみを逆に持つ。上手に切れて喜ぶ。
鬼ごっこをして見つける楽しみ、見つけてもらう楽しさを感じる。	かくれんぼ	「もういいかい」と言いつつ、隠れている友達の方を見る。見つけてもらうのを待ちきれず出てきてしまう。鬼になりたいと希望する子が多い。
季節の手遊びを楽しむ。	「グーチーパー」	焼き芋の手遊びと一緒にのりのりで楽しむ。最後のジャンケンを夢中にやる子。参加せずじっと見る子。
変化する素材に働きかけながら外遊びを楽しむ。	砂遊び	シャベルや器を持ってきて、ケーキやご飯など思い思いに作る。作ったものを見せに来る子。「どうぞ」とご馳走してくれる子。葉っぱや石、実を拾ってきて飾る子。座り込んだまま遊べない子。ひとりてふらふら歩き回る子。大人が一緒だと遊ぶ子。
「いっしょにみよう」。	絵本	AくんとBくんが絵本を取り合う。保育者が「Bくんもみたかったんだよね」と寄り添う声かけを繰り返すと、Aくんもその言葉を聞き入れ、「ごめんね」といい、「いっしょに見よう」とゆずった。
散歩先で身体を動かして遊ぶ。	散歩	到着した場所で走ったり、ボール、鉄棒などで遊ぶことを楽しむ。
秋の季節を知り、自然に親しむ。	紅葉など落ち葉やどんぐり、木の実を拾いながら散歩する	お子様一人ひとりの好きな落ち葉やどんぐりを拾ってバケツに入れたり、ポケットいっぱいにしたり、どんぐりや木の実はとても興味をもち、喜んで拾っている。
色の名前を知る・覚える。	ペーパーサート♪ どんな色がすき	知っている色がでてくると、色の名前を答える。
絵本の世界を楽しむ。	読みきかせ 「ばばんのぼん」	「ばばんのぼん」の手拍子のリズムを覚え、セリフに合わせて手をたたく。
好きなものになって表現することを楽しむ。 ・保育者や友達と一緒に同じことを楽しむ。	好きなお話しに出てくる言葉のやり取りを楽しむ 「おおきなかぶ」	簡単な言葉を繰り返し言ったり、身体を動かして役になりきったりする。友だちや保育者とイメージを膨らませている。
絵本を楽しむ。	読みきかせ 「だるまさんが」	ぷしゅー びろーん ぷー と身振り手振り、言葉をまねて楽しんでいる。
簡単なごっこ遊びを楽しむ中で保育者や友だちと言葉のやり取りを楽しむ。	おいしゃさんごっこ	「おねつをはかりましょう」「ピッドしますよ」「どこが痛いですか?」「ひやしましょう」等々やり取りをしながらイメージを膨らませている。

「アジア教育文化ジャーナル」第1号（2019年3月）

表4 5年以上保育者の3歳児に対するねらいと活動、子どもの姿について (N37)

ねらい	活動	子どもの姿
生活の流れを知り、簡単な身の回りのことをしようとする意欲を持つ。	イラストを使つての説明	時々、保育者に「これどうやるの？」等の質問をしながら身支度をする。
ハサミやのりを使って、自分で作る楽しさを知る。	・お絵描き・シール貼り ・塗り絵・折り紙	ハサミやのりを上手に使い、製作物を作る。
歌ったり、手遊びをする楽しさを味わう。	リズム遊び	保育者と共に音楽に合わせて体を動かす。保育者が行う手遊びを真似る。
遊びにルールがあることを知る。	イス取りゲーム	音楽が止まると自分でイスを見つけ着席できたことに安心する。遊ぶ中でルールが存在することに気づく。 <u>座れなかったことが嫌で大泣きする。</u>
友だちとの関わりを広げる。	ふれあい遊び	普段一人遊びが多い子や、仲良しの子以外の子ども楽しそうに関わる姿が見られる。
友だちとの関わりを広げる。	自己紹介ゲーム	友達の名前を覚え呼ぶ姿が見られるようになった。
正しい書き順を知り、丁寧に取り組み、達成感を感じる。	文字	鉛筆の持ち方が違う子がいる。早く終わらせたい気持ちで雑に書く子がいる。どの字がきれいに書けたか友達と見せ合っている。
濡れた土に触れる。思ったものに触れる楽しさに気づく。	どろんこ遊び	自分で何かを作る楽しさを知る。水を増やしたり、道具を使って遊ぶ。
どろんこ遊びを踏まえて年度を創る楽しさを知る。	小麦粉粘土	身近なもので粘土を作り、友達と話をしながら楽しむ。作ったものが形となり喜ぶ。
話に興味を持ち、楽しむ。	エプロンシアター 「大きなかぶ」	「うんとこしょ、どっこいしょ」の繰り返しを楽しむ。一緒にかぶを引っ張る動きを真似する。立ち歩きかぶを触ろうとする。かぶが抜けると拍手をしたり、友達とハイタッチをして喜ぶ。
じゃんけんで遊ぶ楽しさを知る。	室内ゲーム 「じゃんけん列車」	長くなるにつれ、楽しくなる。 <u>勝ち負けが分からず、保育者に聞く。先頭になりたくて、負けて泣く。</u> 楽しくなって、走り転ぶ。自分の先頭の子がじゃんけんで勝つように応援する。
クリスマス会を楽しみに感じる。季節を味わう。	製作クリスマス帽子 「トナカイ」	作り方が分からず、訴える。トナカイの顔を思い思いに描く。クリスマス帽子をかぶり、子ども同士で見せ合う。
手先の巧緻性を養う。	切り紙遊び	指先が使えず、紙を握って持ち、引っぱって破る姿もあった。貼るのはやらないという子もいた。 <u>のりの量、加減が分からず、多すぎてべたべたになってしまう子もいた。</u>
目で見て、手で触れたものを描く。	指定画	カタツムリに興味津々だった。カタツムリを手のひらにのせたが嫌がる子はいなかった。実際に目にして触れてから書いたので書きやすかった様子。
砂や水、泥などの感触を楽しむ。	水、砂場遊び	裸足で泥の中に入っていけず、嫌がっていた子も回を重ねるにつれて、少しずつ参加することが出来た。泥の感触を楽しみ、手先、お腹まで塗って喜んでる子もいた。
イメージを形にして楽しむ。指先の巧緻性を育む。	粘土遊び	感触を楽しむ。出来たものを保育者に見せ、認めてもらい喜びを感じる。友達作品に興味をもち、真似てみようとする。
身体をのびのび動かして遊ぶ。	戸外遊び	自分の好きな遊びを思いきり楽しむ。友達と順番に使う等のルールを知る。仲間と遊ぶ楽しさを感じる。
季節の行事に親しむ。	七夕飾り製作、飾りつけ	製作を楽しむ。糊やハサミ等の扱い方を知る。自分の飾りが、飾られる喜びを感じる。
一つ一つ話を理解し、活動を楽しむ。	折り紙	一つ一つの折り方を聞きながら自分で折り進めていき、真似ることを楽しみながら、完成を楽しみにする。
ルールのある遊びを楽しむ。	しっぽとりゲーム	保育者のルールを聞き、ルールを理解する。 <u>ルールが分かっていない子がいた場合は個々に対応する。</u>
友達と共通の遊びを楽しむ。	泥んこ遊び	一人遊び。友達や保護者と一緒に山作りをする。
文字や数字に興味をもつ。	郵便やさんごっこ	絵や書ける文字を書き自分なりのはがきを作って楽しむ。郵便やさんの仕事や文字、数字に興味をもち遊びを通して挨拶や言葉のやり取りを楽しむ。
ルールのある遊びを楽しむ。	・いすとりゲーム・しっぽとり ・フルーツバスケット	保育者の説明を良く聞き、ルールを理解する。 <u>理解が難しい子には個別に対応し、ゲームに参加できるよう援助する。</u>
身近な自然を見たり、触れたりしながら秋の訪れを感じる。	園外保育（散歩、自由散策）	公園で虫取りや花の種取りをする。葉の色や木の実などから秋の訪れを感じる。身近な自然物を使用し、工作を楽しむ。
ストーリー性のあるお話を楽しもう。	紙芝居「おおきなかぶ」	子ども自身が登場する人物や動物と一緒に動かす動作をしながら掛け声をする「うんとこしょどっこいしょ」。こんな大きなかぶ抜けるのかなという表情がみられる。抜けたときは「やったー」とうれしそうに顔が見られた。
自分でつくったおもちゃでみんなとあそぶことを楽しむ。	ストローロケット作り	3歳児はロケットの色塗りを保育者やお姉さんに手伝ってもらい、自分で作ったロケットをうれしそうに遊ぶ姿がみられた。
紙芝居の世界を楽しみながらその意義を習得する。	読み聞かせ	見たままの感想を口走る。実際どう行動するかをイメージし、お友達や先生と確認しあう。きちんとその方途を言葉で表現する。
秋の自然に触れ季節の移り変わりを感じる。	園外保育で見つけて拾ってきたものを使いアクセサリ、こま、マラカスを作る	隣のお友達を見ながらまねをして製作する。集中して製作に取り組む。一つの種類の1個目をすぐに完成させ、2個目を作る。完成したマラカスをふって、音を鳴らし喜ぶ。
合図に合わせて空いているフープに入る、フープを2〜3本ずつ減らしていく。	フープとり	ゲーム感覚を喜んで遊ぶ。最後の一人になると宣言する。合図に傾聴しつつこのフープに行こうか見ている。一つのフープに二人入ってしまうとジャンケンで決めるが、負けると悔しがる。
ルールのある遊びを知り友達と楽しむ。	しっぽとりゲーム	夢中になって友達の尻尾を追いかける。 <u>取られないように尻尾を押さえて逃げ</u> 。すぐに取られてしまう。
ルールのある遊びを友達と一緒に楽しむ。	猫とねずみのしっぽとり	期待する子。不安な子。ルールが分からず何となく走り出す子。転んでしまう子。追いかけるのが嫌で猫ばかりやる。しっぽを取られ泣き出す子。何回かゲームをすると理解し楽しめるようになる。
クリスマス製作を楽しむ。	絵の具を使う、紙に色を塗る	製作工程を静かに聴く。友達と話し、聞かない。どのようにするか想像する、友達と一緒に決める。
絵本の世界を楽しむ。	読み聞かせ 「おたんじょうびおめでとう」	手遊びの後、集中する。保育者の質問に答える。ケーキを食べるマネをする。友達や先生にあげる手ぶりを示す。
楽器に興味を持つ。	カスタネット、鈴を初めて使う	カスタネット、すずの使い方を聞く。 <u>楽しくてふざける子がいる。</u> 保育者と一緒にリズムをとる。楽しくお友達とたたく。
新聞紙を使って想像力を養い身近なもので楽しむ。	新聞紙ビリビリ	おもいっきりビリビリと細かく切ることができ、アクセサリを作ってみたり、穴を空けて服を作ってみたり、うもれてみたり。
色の名前を知る。	ペープサート♪どんな色がすき	知っている色が出てくると、色の名前を答える。赤色→レッド、青色→ブルーなど英語で答える子どももいた。出てきたクレヨンの色と同じ糸を身の回りで探す。「○○ちゃんの洋服と一緒に！」など。
絵本の世界を楽しむ。	読み聞かせ「ばばんのぼん」	「ばばんのぼん」の手拍子のリズムをすぐに覚え、セリフに合わせて手をたたく。絵本に出てきたパンの名前を答える。どんな味のパンかイメージを膨らませる。

表5 5年以上保育者の4歳児に対するねらいと活動、子どもの姿について（N20）

ねらい	活動	子どもの姿
ルール遊びを通し、友だち同士の関係を築く。	・おにごっこ・ドッジボール ・氷おに	保育者や他児と一緒に楽しむ。遊ぶ。
身の回りのことを一人でできるようになる。	・布団を畳む・衣服の着脱 ・歯磨き・うがい	保育者に「やって」と訴える子どもも居るが、一人で、おおむねすることができる。
絵本の世界を楽しむ。	「てぶくろ」の読み聞かせ	集中して聞いている。立ったりする子。注意する子。「ぎゅっとしてー」と、てぶくろの内容と同化しようとする。しばらくしてから、またおしくらまんじゅうしたいと言ってきた。
友達とイメージを共有し、作品づくりを楽しむ。	作品展の共同制作	絵の具やりの等の素材の感触を楽しみ、友達とそれを共有する。自分の役割を見つけ、友だちと力を合わせようとする。作業に飽き、室内を立ち歩く。
絵本に親しみ、製作活動につなげる。	読み聞かせ 「からすのパン屋さん」	絵本に興味を示し、その後の製作遊びでも本を見ながら粘土で創作していた。
風を感じる。自然について興味を持つ。寒い中でも体を動かす。	・紙皿プーメラン・傘袋ロケット ・風揚げ（ビニールにたこ糸）	子ども自らが選択して自由に作ったものを土山から投げたり走ったりして遊んだ。
シャボン玉を自分で作り楽しむ。	シャボン玉遊び	なかなか膨らまず、紙コップにぶくぶくとし、別の遊びを見つける。友達と膨らませ合い、笑い合う。
新聞を使って、様々な遊びを楽しむ。	新聞遊び	じゃんけんをして負けたら折って楽しむ。新聞紙を友達とつなげて線路を作る。思い切りちぎって散らかした後、片づけをする。
正月遊びを楽しむ ルールを守って遊ぶ。	かるた取り	初めはルールが守れずにトラブルも多かったが、回を兼ねるうちにルールを守って遊べるようになった。
ルールを守って遊ぶ。じゃんけんを知る。	蛇鬼	じゃんけんの勝敗をわかっていない子。勝ったら進む、負けたら列に戻るといふ蛇鬼のルールが理解できない子がいた。じゃんけんは、この活動以外にも毎日繰り返した。回を重ねるうちに、ルールを理解して楽しく遊べるようになった。
紙芝居の世界を楽しむ。	紙芝居・読み聞かせ	集中して話をさく。話の内容を理解し、紙芝居終了後、友達同士で感想を話す。絵に興味をもつ。
達成感を味わう。指先の巧緻性を育む。	折り紙	見て真似る事の得意・不得意の差がある（個別で対応が必要）。出来上がりの喜びを感じる。
色彩を楽しむ。	絵の具遊び	筆の使い方を知りながら、クレヨンなどとは違う感触を楽しんだり、色彩を楽しむ。
イメージを膨らませて活動する。	ちぎり絵をしよう	テーマ「動物」「乗り物」自分で作りたいものを決め、色や形などイメージを膨らませて作っていた。なかなか決められず、戸惑い作り出せない子もいる。
約束やルールを守り仲良く遊ぶ。	ルールのある遊び	譲ったり、譲れないこともある。ジャンケンの勝ち負けが分かる。
文字や言葉への興味を深める。	・しりとり ・なぞなぞ 連想ゲームなどの言葉遊び	自分の知っている言葉を発表する。答えるだけでなく、自分から問題を出そうとする子もいる。
交通ルールを守り、二列歩行ができる。	散歩	列が乱れる。間が合ってしまう。信号、標識に興味をもつ。守ろうとする。
絵本を楽しみ想像を膨らませる。	読み聞かせ 「なつみはなんにでもなれる」	問いかけに対して自分の考えを話す。友達と相談する。実際に内容のポーズを取る。
ルールを守り、フルーツバスケットを楽しむ。	フルーツバスケット	友達と一緒にルールの確認をする。友達を応援する。思い通りにならなくて泣く。
ごっこ遊びや遊びのルールを知る。	かくれんぼ	鬼は1～10まで数えられる子が多く、かくれる子供たちは自分がかくれる場所を選んで工夫してかくることができる。

「アジア教育文化ジャーナル」第1号（2019年3月）

表6 5年以上保育者の5歳児に対するねらいと活動、子どもの姿について（N28）

ねらい	活動	子どもの姿
就学へ向けて行動する力を持つ。	・朝の支度 衣服の着脱 ・集中して紙芝居を観る ・文字を覚える。	自分のロッカーから衣服を取り出し、着脱をする。保育者に聞きながら、ロッカーやカバン、壁、絵本に書かれている文字を読む。
積極的に遊びを見つけ、友だち同士で遊ぶ。	・鬼ごっこ・サッカー ・ドッジボール・コマ ・木登り・大縄	友だちを誘い、ルール遊びやごっこ遊びをする。トラブルとなることもあるが、保育者が仲立ちをし、話し合うことができる。他児同士で解決できる事もある。
友だちと協力して一つのものを作る。	展覧会（共同作品・ゆうえんち作り）	役割分担を決め、声をかけ合って取り組む子どもがいる。自分がやりたいと主張を強く訴えぶつかりあう子どもがいる。何をやるのか分からず、手持ちぶさたになり別の遊びをし始める子どもがいる。
ひらがなに関心を持つ。	文字の練習	興味を持ちいろんな言葉を探して発表したり、紙に書いたりする子どもがいる。ひらがながまだあまり書けず、どのように書くのか聞いて確認する子どもがいる。沢山書くことを面倒がり、1〜3個書きで満足する子もいる。
交差とびの方法を知り挑戦しようとする。	なわとび（交差とび）	何度も挑戦する子もいる。飛ぶ寸前で交差をやめてしまい、上手くできていない子もいる。飛べた喜びを感じ伝えにくる子もいる。難しいと感じ座りこみやらない子。
様々な道具や用具の使い方を知る。	作品展に向けての作品作り（ダンボールや牛乳パックをテープ等で組み立てる）	積極的に道具や用具を使おうとする。自分でやってみてうまくいかない時は、まず直そうとしたり、友だちの手を借りる。
友だちと協力して作り上げる喜びを味わう。	作品展に向けての作品づくり（自分たちで役割を決めて進める）	進んで友だちや自分の役割を決める子もいる。「ぼくがやる」と役割分担でトラブルになり活動が進まない。二人一組で協力して組み立て、出来上がった物を保育者に見せに来る。（出来た！！と大きな声）
文字と言葉の遊び。	言葉集めゲーム（チーム対抗）	友達と協力して案を出し合っていた。他のチームの答えを見る子もいた。
地域の清掃活動に参加する。	清掃	海にはいろいろなごみがある事に気づく。ごみを分別することを知る。
絵本の世界を楽しみ、作って表現する。	読み聞かせ「ボカボカホテル」	友達と話す。スリッパやリスの折り方が分からず保護者に訴える。折り紙をちぎって張り、クラスで一つの気を作るときに、リーダーシップをとる子、ほとんど参加せず見ている子もいる。
作って遊ぶ楽しさを知る。	製作 けん玉づくり	作り方が分からず保育者に訴える。ボールが紙コップに入らず、すぐに飽きてしまう子、入るまで粘り強く続ける子もいる。子ども同士で見せ合う。遊ぶのに夢中で保育者の話を聞かない。
・端午の節句を祝う。 ・手先の巧緻性を養う。 ・みんなで一つのものを作り上げるという充実感を味わう。	こいのぼり製作	意見を出し合って一つに決める際、なかなか譲ってあげることができなかった。完成した時は、鯉のぼりの歌を歌って喜んでた。
植物の生長に興味関心をもつ。	ミニトマト苗植え	「おいしくなってるね」と姉に声をかけていた。肥料の土のにおい、ミミズを発見したことで、普通の土との違いを発見していた。実りを楽しみにし、水揚げ当番をがんばった。
文字への興味、ルールの大切さを知る。	カルタ遊び	競争心をもって取り組む。ルールを守って遊ぶ。文字の知識量によって取れる枚数が大幅に違ってしまふ。
イメージを膨らませて創造する。	自由製作	自分なりのイメージを形にして楽しむ。なかなかイメージがもてず活動に取り掛かれない子もいる。仲間の姿をみて、真似てみたり試行錯誤する。
協力して活動を進める。	グループで自由製作	グループでの話し合いとなり、発信する子、そうでない子と別れる。その中でも話を子ども達で進め、完成を目指し協力する。時には、思いが通らず、言い合い等にもなるが、グループなので他の子が間に入り、互いの思いを聞いて、良い方法を探す様子もあった。
自分で色を作る楽しさを知る。	絵の具で色作り、グラデーション	色作りでは、自分で作るなかで試行錯誤して作り、出来た喜びを感じたり、筆のチューブの使い方等も知っていく。グラデーションでは、色の変化に驚いたり、発見する楽しさを知ることができる。
達成感や満足感を味わう。	マラソン大会	各自で目標を持って日々練習に取り組む。保育者や友達の励ましにより、頑張って完走することができる子もいる。
正月遊びを楽しみながら文字や数への理解を深める。	カルタ大会	友達同士、競争心を持ち大会に参加する。トーナメント表をつくる。目標を持って繰り返し挑戦する。
数や物の数え方に興味関心をもつ。	お店屋さんごっこ	財布やお金を作ったり廃品などを利用し、友達と相談・協力しながら品物を作ったりする。店員、客になったりしてお金や品物のやり取りをする。
びよんびよん蛙を工夫して作り楽しんで遊ぶ。	製作 びよんびよん蛙	用具を正しく使おうとする。用具の使い方を確認する。イメージ通りに作れず、最初から作り直す。
友達と協力して取り組む。	お遊戯会	歌や踊りを覚える。クラス全員で一つのものを作り上げる（団結）。
季節の作品作り。	制作活動	画用紙、絵の具、折り紙、はさみ、のりなどを使って季節の作品作りに取り組む。
元気一杯身体を動かす。	マット・跳び箱・平均台	マット→前転（ころころ）。跳び箱→二段。平均台→両手を広げてまっすぐ歩く。かにさん歩き。
小学校に向けて字を覚える。	ひらがなドリルをする	保育者と鉛筆の持ち方を確認する。難しく書けなくて悔しが、友達に聞く。保育者と一緒に書きかたを学ぶ。綺麗に書いて時間までに終わらない。
父母に感謝の手紙を書く。	父母に手紙を書く	どのように書くか想像する。書けない字を保育者のホワイトボードに書いてもらう。友達のアドバイスを聞く。
最後の遠足を楽しく過ごす、社会のルールを身につける。	卒園遠足「上野動物園」電車行動	電車に乗る時の約束を保育者と確認する。友達と一緒に確認する。興奮して大声で話す。グループから離れて歩く。動物を集中してみる。お弁当の中身を見て「おいしそうだね」などと話す。自分たちで行きたいところを決める。
手先を使ってはさみやのりを使い工夫して製作する。	凧の製作	はさみやのり、ペン、折り紙など、上手に使いこなせる子が多く、自分なりに材料などを工夫して作っている。

4. 今後の課題

養成校では学生に確かな実践知を教授するため、登園から降園までに見られるであろう子どもの姿には「より援助が必要な姿」も含め、具体的に子どもの姿をイメージすることが可能となる指導をすることが重要である。今後の課題は、実習前学生と実習後学生が捉えている子どもの「望ましい子どもの姿」及び「より援助が必要な子どもの姿」を5年以上保育者と比較し、その差異を埋めるための指導法を検討することである。

引用・参考文献

広瀬健一郎（2006）大学における保育短期指導計画作成の教授法 活動提案型指導案の立案指導（小特集 保育者養成実践研究）、文化女子大学室蘭短期大学研究紀要、29、23-45。

保育者養成課程研究会（2017）平成28年度幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究－幼稚園教諭の資質能力の視点から養成課程の質保証を考える－、http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1385790.htm
2018年10月15日アクセス。

厚生労働省（2017）保育所保育指針、フレーベル館

文部科学省（2017）幼稚園教育要領、フレーベル館

文部科学省・厚生労働省・内閣府（2017）幼保連携型認定こども園教育・保育要領、フレーベル館

大宮勇雄（2006）保育の質を高める、ひとなる書房

砂上史子・秋田喜代美・増田時枝・箕輪潤子・中坪史典・安見克夫（2012）幼稚園の片付けにおける実践知－戸外と室内の片付け場面に対する語りの比較－、発達心理学研究、23(3)、252-263。

高濱裕子（2001）保育者としての成長プロセス、風間書房

田代和美「保育方法・形態」（森上史郎・柏女霊峰（編）（2015）保育用語辞典 ミネルヴァ書房、p112。

戸田大樹（2015）「保育科学生の実習における課題に関する研究－言葉かけの問題を中心として－」、茶屋四郎次郎記念学会誌、(5)、125-134。

戸田大樹（2018）保育者が一斉保育で選択する主活動の実態に関する実証的研究、

「アジア教育文化ジャーナル」第1号（2019年3月）

創価大学教育学論集（70）、125-135。